



生誕100年 に向けて

金子みすゞ

生誕100年記念行事

今年4月11日は、長門市が生んだ童謡詩人「金子みすゞ」の生誕100年にあたります。

そこで、みすゞの『思いやりの心、いたわりの心』を全国に発信し、次世代に伝えることを目的として、「金子みすゞ生誕100年記念行事」が開催されています。

昨年は、5月の「仙崎みすゞまつり」を皮切りに、6月に「みすゞのうたコンサート」、8月に「みすゞ七夕笹まつり」、9月に「金子みすゞ物語」公演、10月には「みすゞの学校と全国授業inながと」などが開催され、全国からも多くの人が参加しました。



約1,300人が参加した「みすゞの学校と全国授業inながと」(仙崎小での分科会)

「みすゞ館」

入館者が20万人突破

8月19日、JR仙崎駅舎内にある「みすゞ館」の入館者が20万人を突破。20万人目の奈良市在住の岡森夫さんに松林市長から記念品が手渡されました。

みすゞ館は、映画やテレビドラマなどの効果で入館者が急増しており、昨年度は約6万7千人が入館。今年度も11月末までの8ヶ月間に約6万人が訪れています。

金子みすゞ記念館

今年4月11日のオープンを目指して6月28日に着工しました。

記念館は、金子文英堂跡地とその隣接地約900平方メートルに総事業費約4億1千万円で建設するもので、記念館、金子文英堂、休憩棟の3棟から構成されています。みすゞが過ごした当時の雰囲気再現したデザインで、3冊の手帳や着物等の遺品、当時の雑誌など、約200点の資料を展示して、みすゞの世界を紹介します。



長門地域1市3町

合併に大きく前進

合併特例法(市町村の合併の特例に関する法律)の期限が平成17年3月末に迫るなか、全国各地で市町村合併の動きが大きくクロージアアップされました。

長門地域1市3町でも、12月定例議会にて法定合併協議会の設置が承認されるなど、合併特例法の期限内での合併に向けて大きく前進しました。

まちづくり懇談会

市では、5月13日から市内8会場で開催した「まちづくり懇談会」において、市民の皆さんに合併シミュレーション調査について説明し、松林市長自らも市町村合併に取り組み考えを説明しました。各会場とも市町村合併問題について活発な意見が交換されました。

市町村合併シミュレーション調査事業報告書

1市3町で組織する長門地区広域市町村圏振興整備協議会は、3月末、合併した際の効果などを試算した合併シミュレーション調査報告書を作成し、公表しました。

長門地域合併検討協議会

9月9日、長門地域の合併を議論する「長門地域合併検討協議会」(任意合併協議会)委員は1市3町の首長、助役、議長と各議会推薦議員1人の16人で構成)が設置され、長門市物産観光センターで第1回目の協議会が開催されました。

10月1日には、この協議会の事務を処理するため、長門市役所内に事務局が設置され、1市3町から5名の職員が派遣されました。



「長門地域合併検討協議会」の様子



市内8会場で開催した「まちづくり懇談会」



1市3町長による協議会設置についての記者発表

民間主催の合併講演会

民間サイドでも、9月14日、1市3町の商工会議所と商工会などが主催した「このままではあぶない長門広域圏・地方分権と市町村合併を考える」と題した講演会が開かれるなど、合併に向けての動きが活発となりました。